

確かな学力の定着・向上を目指した指導の工夫

～基礎学力の確実な定着を図るための指導のあり方～

本校の子供たちの学力に視点を向けてみると、全国学力学習状況調査の結果から、全国平均と比較すると十分とは言えず、身につけるべき基礎・基本の力が定着されていない状況にある。さらに「家庭学習時間」については平日、休日ともに、全国及び県と比べて少ない状況にあることが分かった。

これらの課題から見えてくるものは、基礎・基本の徹底をはじめとする確かな学力の定着を目指した日常的な取り組み、授業改善の工夫の必要性である。そこで本年度は、「やまなしスタンダード」の視点を明確にし、基礎学力の確実な定着を図った授業づくり・授業改善を進め、児童の確かな学力の定着・向上を目指していきたいと考え本主題を設定した。

I 研究の内容

1 児童の実態把握

- (1) 「全国学力学習状況調査」「県学力把握調査」結果の分析と対策活用
- (2) NRT, Q-Uを活用しての児童の実態把握

2 授業研究・授業実践

- (1) 「やまなしスタンダード」学習会
- (2) 基礎学力の確実な定着を図るための授業実践・実践交流
- (3) 家庭学習と連動した授業の工夫

3 主体的な家庭学習の習慣化

- (1) 「家庭学習の手引き」の見直し（系統性）
- (2) 授業と連動した宿題の取り組み
- (3) 家庭学習の定着を図る「自主学習ノート」の取り組み
- (4) 保護者への啓発

II 研究実践

1 学習会

「やまなしスタンダード」～算数科・社会科の視点から～

講師 義務教育課 主幹・指導主事 小池 孝二 先生
指導主事 植松 聖人 先生

2 検証授業

- (1) 第5学年 算数科授業実践「分数のたし算とひき算」
授業者 日原 英二
- (2) 第2学年 国語科授業実践「あったらいいな、こんなもの」
授業者 松岡 めぐみ

3 一人一実践(授業改善プラン)

算数科(1, 3, 4, 5年, 特支6年) 国語科(2年, 特支2・3年, 4年)
理科(5年) 英語科(6年) 保健指導(全校)

4 実践交流(実践例)

- ・理科における学習問題(めあて)設定の工夫
- ・国語科『読むこと』の指導
- ・家庭学習, 自主学習の取組
- ・学級づくりの取組

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・児童の実態把握については、「全国学力学習状況調査」「県学力把握調査」結果を全教職員で分析し、対策を確認することができた。結果から見出された課題については、担当学年だけでなく、全学年が課題意識をもって指導にあたるなど、具体的な授業改善を行うことができた。
- ・「やまなしスタンダード」については、年度当初に学習会を開くことにより、先生方の疑問点を明らかにすることもでき、改めて7つの視点を共通認識する機会がもてた。授業始めのめあての提示や終末の授業のまとめ・評価、言語活動の充実など「やまなしスタンダード」を意識して取り組むことにより、授業改善を図ることができた。
- ・各部会で取り組んだ研究授業では、家庭学習と連動した授業の工夫により授業の中でのめあてのもつ意味を再確認し、学習の指針としてのめあての充実を図ることができた。さらに家庭学習の中に予習的課題を持たせることで、主体的で意味のある家庭学習を定着させることができた。また、スタンダードの視点が明確化された授業案も工夫され、新しい取り組みを行うことができた。
- ・実践交流では、具体的な取組を先生方の優れた実践報告・情報交流する機会をもつことができた。
- ・家庭学習の習慣化は、「学びの改善八か条」をもとに「家庭学習チェック表」を作成し親子で一緒に振り返りを行ってもらったことで、保護者にも学習面だけでなく生活習慣や学習環境の見直しなど広い意味での家庭学習を意識してもらうことができた。「自主学習ノート」は、各学年で取り組み方を指導し、全学年で実施することができた。
- ・児童の学力に関する実態把握の一つとしてNRTの活用を試みた。NRTは、次年度へしっかり引き継ぎ対策活用していくことで、継続性をもった指導を進めることができると考える。

2 課題

- ・教職員の意識変化や児童の姿（授業での児童観察・ノート・テストによる学習内容の理解と定着など）から変容を見取ることはできるが、児童の実態や変容を数値的に把握し成果や課題を分析するなど、検証方法を考えていく必要がある。
- ・家庭学習の定着を図る取組では、習慣化とともにノートの質を高める取組も行っていきたい。進んで取り組む子供たちがいる一方で、なかなか取り組まない子供たちもいて差が大きい。学校と家庭との連携を深め、児童の家庭での学習を充実させていくために、まだ十分に協力を得られていない家庭に個々に働きかけることにより家庭学習全体の底上げを図っていく。
- ・「家庭学習チェック表」については、チェック項目を発達段階に合わせ、内容や数を工夫するなどさらに改善して定着させていきたい。

Ⅳ 成果物

- 1 研究授業指導案及び資料
- 2 授業実践指導案
- 3 「家庭学習チェック表」「家庭学習の手引き」

(研究主任 丸山 英子)